



尼崎市立小園中学校 第1学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 2

社会科(地理的分野)を学ぶこと！？

もしも、社会科を「暗記教科」だと考えている人がいたら、その考え方を今の間になおしてください。「暗記教科」だと考えた瞬間に、社会科の学習はおもしろくなくなります。もちろん、記憶しておかなければ、わからないことも多くあります。それは、どの教科でも同じことなのです。

それでは、社会科では何を「記憶」「暗記」しなければならないのでしょうか。

社会科の内容は、社会に存在しているさまざまな事実や現象を、社会科学的に構成し直して判断・理解することになります。

たとえば、「ごはん」や「ラーメン」を取り上げても、家庭科ではどうすればおいしいか、栄養的にはどうかということが課題になるでしょう。理科ではその食品の化学分析の結果はどうか、原子構造はどうなっているかなどと考えたり、数学科では数量や体積などの計量が問題になるかも知れません。国語科では、「おいしい」という表現をどのようにするかという課題で考えるかも知れません。



社会科(地理的分野)では、「ごはん」のもとである「稲」や、ラーメンの主原料である小麦が、どんな地理的条件のところで生産(栽培)されるのか。とか、どんないきさつでその地域で栽培されるようになったのか。あるいは、どのようにして生産者から消費者まで運ばれるのか。生産されたものが、その地方ですべて消費されるのか、輸出されているのか、と考えていきます。

そのように、社会科では社会にある事実を社会科学的に観察し、自分たちの生活を社会科学的に理解することを中心に学習します。その目標は、君たちが大人になったときに、さまざまなできごとを合理的・客観的に理解し、公正に判断し態度をとれるような能力を形成することにあります。

ところが、「暗記」するだけでは、そのような能力は形成されません。自分の

力で考え、判断する練習や学習をしなければ無理なのです。考えたり判断するためには、社会科学の研究成果から生み出された専門用語や研究方法を理解し、身につけることが重要になります。そこで、理解し記憶することがらは、そのような専門用語や研究方法と、国名や山脈名などのような考えてもわからないことに限られてきます。しかも、今の学習内容が、後になってより高度な内容に発展する可能性をおびた基本的な内容に限られてきます。覚えることは必要最小限にして、後は考えることに力をそそいでください(もちろん、覚えなければならぬことは授業中に言っています「これは覚えておきなさい」と)。

今度の間考査のポイント

知識・理解に関すること

食糧自給率、経線、緯線、赤道、標準時、時差、熱帯、熱帯雨林気候、サバナ気候、乾燥帯、ステップ気候、砂漠気候、温帯、温暖湿潤気候、地中海性気候、西岸海洋性気候、冷帯、寒帯、ツンドラ気候、氷雪気候、雨温図、気温、降水量、偏西風、暖流、寒流、となかい、こうりゃん、さつまいも、タロいも、ヤムいも、バナナ、遊牧民、主食、穀物、小麦、大麦、雑穀、とうもろこし、根菜類。

ユーラシア大陸、アフリカ大陸、北アメリカ大陸、南アメリカ大陸、オーストラリア大陸、太平洋、大西洋、インド洋、地中海、アパラチア山脈、ヒマラヤ山脈、アルプス山脈、ロッキー山脈、アンデス山脈、サハラ砂漠。

資料活用技能を試す問題

雨温図を読みとり、気候の特徴が説明できるかどうかを試します。また、気候の統計を読みとって、グラフにあてはめることができるかどうかを試します。さらに、時差の計算をできるかどうかを試します。

社会的思考判断を試す問題

気候と緯度・海流・風の間関係を考えてもらいます。

関心・態度を試す問題

「日本の食料事情について」の作文を書いてもらいます。授業で学習したことや自習で知った事実に基づいて、自分の考えを説明できるかどうか、大切なポイントになります。